

# 第**176**期 株主通信

2022年4月1日

2023年3月31日



<b>Contents</b>	株主の皆さまへ	<b>01</b>
	連結業績ハイライト	<b>01</b>
	主要連結財務データ	<b>02</b>
	セグメント別業績	<b>03</b>
	特集 社長インタビュー	<b>05</b>
	TOPICS	<b>08</b>
	連結財務諸表	<b>09</b>
	会社の概況／株式情報	<b>10</b>

## 株主の皆さまへ

### ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第176期連結事業に関しましてご報告を申し上げます。

当連結会計年度においては、コロナ禍からの緩やかな持ち直しが続く一方で、世界的なエネルギー・食料価格の高騰や世界経済減速の影響を受けて先行きの不透明な状況が続きました。

このようにかつてなく複雑で変化の激しい環境ではありますが、当社グループは、品質と企業価値の更なる向上を目指して成長すべく、「高品質な製品を安定的に提供し続けることを通じて社会に貢献すること」「常に変革の意識を持ち、いかなる変化にも耐えうる強靱な経営基盤を構築すること」に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年6月

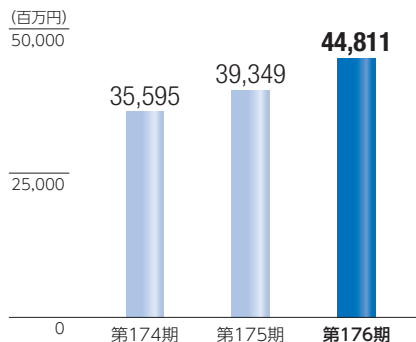


代表取締役社長

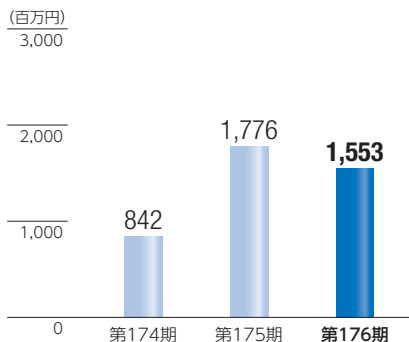
伊藤 裕子

## 連結業績ハイライト

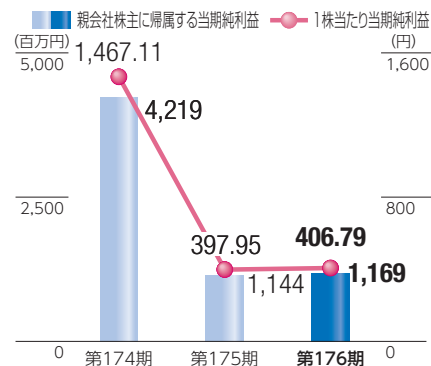
### 売上高



### 経常利益



### 親会社株主に帰属する当期純利益/1株当たり当期純利益



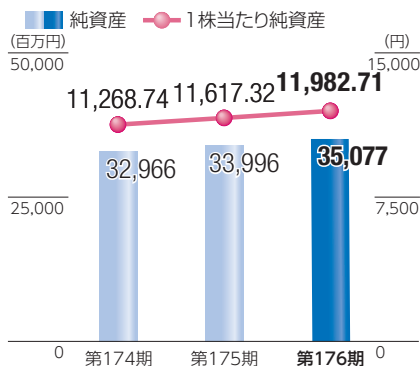
## 主要連結財務データ

項目		期別	第174期 (2020.4.1~2021.3.31)	第175期 (2021.4.1~2022.3.31)	第176期 (2022.4.1~2023.3.31)
売上高	(百万円)		35,595	39,349	44,811
経常利益	(百万円)		842	1,776	1,553
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)		4,219	1,144	1,169
一株当たり	当期純利益 (円)		1,467.11	397.95	406.79
	純資産 (円)		11,268.74	11,617.32	11,982.71
総資産	(百万円)		69,410	68,417	69,564
純資産	(百万円)		32,966	33,996	35,077

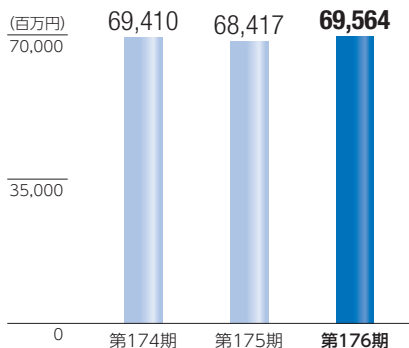
当連結会計年度における当社グループの業績は、活動制限緩和の影響もあり増収となりましたが、世界的な原材料費・動力費の高騰により利益面で苦戦しました。

当連結会計年度における親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券の売却益を計上したことにより増益となりました。

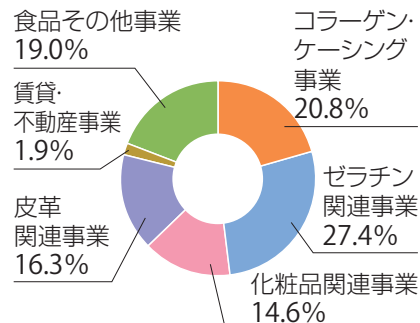
### 純資産／1株当たり純資産



### 総資産



### セグメント別売上高(連結)



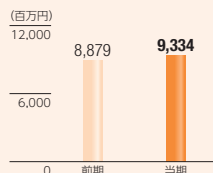
## セグメント別業績

### コラーゲン・ケーシング事業

売上高

**9,334**百万円

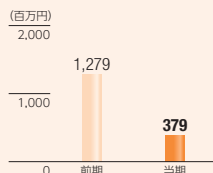
(455百万円増、  
前期比 105.1%)



営業利益

**379**百万円

(900百万円減、  
前期比 29.6%)



国内販売については、活動制限の緩和に伴い、地域の各種行事やイベント活動等が徐々に増加していることもあり、売上を伸ばしております。輸出販売についても北米を中心に好調に推移しました。一方で、価格改定を実施してはいるものの、原材料及びエネルギー価格の大幅な値上がりによって生産コストが上昇した影響を受けて、利益面では厳しい状況で推移しました。

競合他社との価格競争が一層激化しており厳しい環境ではありますが、更なる生産性の向上に注力して収益改善に努めてまいります。

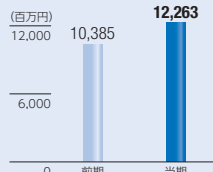


### ゼラチン関連事業

売上高

**12,263**百万円

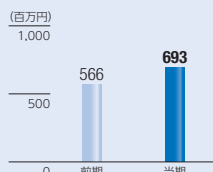
(1,877百万円増、  
前期比 118.1%)



営業利益

**693**百万円

(126百万円増、  
前期比 122.3%)



ゼラチン部門は、ソフトカプセル、グミキャンディ用途を中心に好調に推移しました。また、経済活動の正常化に伴い、レストランやホテルなどの業務用食品用途の需要も回復傾向にあり、増収増益となりました。

ペプタイド部門は、訪日外国人客の増加、健康食品市場の世界的な伸長を背景に国内外ともに順調に推移しました。利益面では、原料価格の上昇や輸入為替の影響があったものの、販売価格の改定を段階的に実施した効果もあり増益となりました。

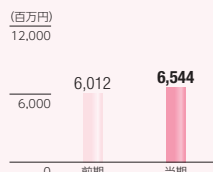


### 化粧品関連事業

売上高

**6,544**百万円

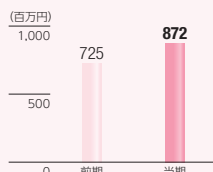
(531百万円増、  
前期比 108.8%)



営業利益

**872**百万円

(147百万円増、  
前期比 120.4%)



化粧品は、長引くコロナ禍の影響で個人消費が鈍化しており、低調に推移しました。

健康食品は、健康志向の高まりと通信販売の優位性を背景に「ニッピコラーゲン100」が引き続き好調に推移しました。

当社のグループ会社である株式会社ニッピコラーゲン化粧品では、この春に新しいブランド『COLLESSENCE (コレセンス)』を立ち上げ、同ブランドの新商品として『コレセンス エンリッチ ナイトマスク』を発売いたしました。本商品は処方からパッケージや容器、包装にいたるまで、すべて環境に配慮した設計となっております。

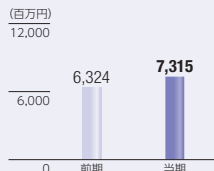


## 皮革関連事業

### 売上高

**7,315**百万円

(991百万円増、  
前期比 115.7%)



### 営業利益

**113**百万円

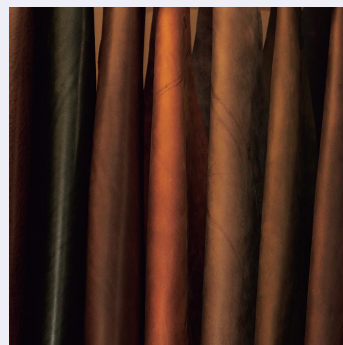
(247百万円増、前期は  
営業損失133百万円)



靴・袋物部門は、コロナ禍の活動制限解消に伴い、紳士靴・婦人靴の需要が徐々に回復しており売上は伸長しております。利益面については、原材料費、加工費、輸入為替などのコスト上昇に苦戦しましたが、収益性の改善に努め増益となりました。

車輻部門は、ハンドル用革の販売が、2022年3月末～5月末にかけて中国上海市においてロックダウンが行われた影響などで出荷が滞り減収となりました。

皮革業界は、依然として厳しい状況下ではありますが、今の時代を生き残るために、固定観念にとらわれずに新たな取組みに挑戦してまいります。

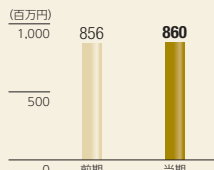


## 賃貸・不動産事業

### 売上高

**860**百万円

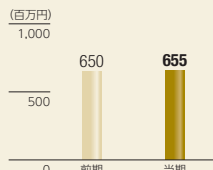
(3百万円増、  
前期比 100.5%)



### 営業利益

**655**百万円

(4百万円増、  
前期比 100.7%)



東京都足立区の土地賃貸事業は、大規模商業施設、保育所、フットサルコート、駐車場用地として有効活用を図っております。

大阪府大阪市の土地賃貸事業は、中央区心斎橋において商業施設用地として有効活用を図るほか、浪速区なんばにおいては、「難波中二丁目開発計画」改め「なんば パークス サウス」を本格始動しております。同地区では、「ホテル京阪 なんば グランデ」及びオフィス棟「パークス サウス スクエア」が2023年3月に開業し、同年7月1日には「セントラランドホテル大阪」が開業予定となっているなど、新規事業を着実に推進しております。

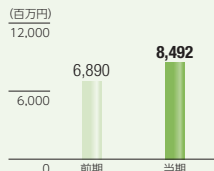


## 食品その他事業

### 売上高

**8,492**百万円

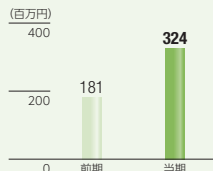
(1,601百万円増、  
前期比 123.2%)



### 営業利益

**324**百万円

(142百万円増、  
前期比 178.7%)



有機穀物は、コンテナ不足による物流の滞りが解消傾向となり増収となりました。

イタリア輸入食材は、活動制限の緩和に伴い、レストランなどの外食産業の需要回復が進み増収となりました。

バイオ関連製品は、iMatrixシリーズやバイオマッシャーなどの販売が、国内外製薬会社や民間研究機関を中心に好調に推移しました。また、ペットサプリメントの売上も順調に推移しました。

当社グループ会社が運営するショップ『VENTI PINO (ヴェンティ・ピノ)』では、イタリア輸入食材を紹介・販売しています。

専用サイト：<http://www.okurafs.co.jp>





### Q 社長に就任した今の心境と抱負

この度、代表取締役社長に就任いたしました伊藤裕子です。この場をお借りして株主の皆様にご挨拶申し上げます。

当社の新たな歴史を作っていく喜びを感じるとともに、110余年の歴史のある企業に新たな価値を吹き込むという責任の重さを思い、大変緊張しております。

これから、私が社員とともにニッピの歴史を作っていくにあたり、特に大切にしたいことがあります。

- ①生産性を向上し、質の高いアウトプットを目指すこと
- ②好奇心をもって、謙虚に学ぶこと
- ③前例にこだわらず、前例から学んで挑戦すること

この3つを、私を含め社を挙げてこれからのテーマとしていきたいと考えています。

当社の経営理念にあります「社会の信頼を確保する」ということは、当たり前のことを当たり前に行って収益を上げていくということと言い換えることができると考えております。この経営理念のもと、前述の3つのテーマに取り組んでまいります。

引き続き、当社並びに当社グループをご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

#### 代表取締役社長 伊藤 裕子 (いとう ゆうこ)

1969年8月神奈川県生まれ。2004年9月当社入社。営業部門、管理企画部門を経て2015年7月より執行役員として従事。2017年英国リーズ大学ビジネススクールにてMBA取得。2021年6月取締役経営企画室長に就任し、化粧品・健康食品事業部、関係会社、知的財産を担当。2023年4月代表取締役社長就任。

### 経営理念

企業価値の向上に継続的に取り組み  
社会貢献と企業の利益創出の同時実現を通じて  
社会の信頼を確保する



## Q 喫緊の課題・目標について

企業活動においても二極化が進む中で、コラーゲンを含むタンパク質研究により得た知見を核としながら、独自のプレゼンスを上げたいと考えています。喫緊の課題は収益改善ですが、そのためには単なる製造工程の生産性向上にとどまらず、従業員一人一人が自らの強みを活かせる環境や、それぞれの成長が当社グループの成長、ひいては社会の繁栄につながるような仕組みをつくりたいと考えています。

## Q 「女性社長」について

国内、特に「製造」業種での女性社長比率は低水準であると認識しております。これは、日本の製造業の主流が自動車産業、重工業であることと密接に関連があると考えております。

日本の大学において、工学系の学部の女性比率が低いことが、製造業での女性の活躍が少ないことの要因のひとつであるように思います。また、日本と同じ工業国であるドイツには、女性が組織のトップである企業団体を多く見かけますが、組織体の違いも要因のひとつかもしれません。

1986年に男女雇用機会均等法が施行されてから30余年、女性エンジニアも少しずつではありますが増えています。今後はより多くの産業や職種で男女比率の偏りが少なくなっていくでしょうし、そうなるべきであると考えています。マネジメントとオペレーションに求められる資質やスキルは必ずしも同じではありません。特にマネジメントという役割については、集団をケアし導くことが求められますので、ステレオタイプではありますが、女性のコミュニケーション能力や目配り、育てる力などが発揮される役割だと考えます。

## Q 「女性が活躍する社会」について

子育てや介護などで規定の時間に就業できないことによりキャリアが途絶えるということは、ご本人だけではなく、企業にとっても社会にとっても大きな損失です。性別や国籍その他の違いによって活躍が制限されることは、企業及び社会の成長を妨げることになると考えております。会社に貢献する意欲のある方には、男女問わず活躍していただきたいと思っておりますので、当社においても性別にかかわらず活躍できる環境をつくってまいります。

## Q 最近の業界の懸念事項・課題

原料費や動力費の価格高騰は、大きな懸念です。すでに行っていることですが、原料ソースの多様化や生産工程の見直しなどにより、サプライチェーンの安定化とコスト削減に取り組めます。そして、顧客に提供する商品価値を高めるための取り組みを継続的に行うことにより、事業の安定と収益性の向上に努めてまいります。

日本の少子高齢化も大きな懸念のひとつです。労働人口の減少や地方の生産工場の不人気は、当社においても看過できない課題であると認識しております。生産性向上の取り組みと同時に、魅力ある職場づくりは工場だけの問題ではなく、会社全体として取り組むべき課題であると考えております。

また、当社の重要な原材料が生物由来原料であることから、国際紛争等によるサプライチェーンの混乱や温暖化による生態系の変化等、すぐには対応できない問題もありますが、「想定して備える」ことを今まで以上にしていかなければならないと認識しております。

## 特集 社長インタビュー

### Q サステナビリティについて

当社は、食肉の副産物である皮革に始まり、皮革産業の副産物であるゼラチン及びコラーゲンの産業化の扉を開き新たな事業として展開するなど、事業そのものが「副産物に新たな価値を与える」というまさに循環経済を体現したものであると認識しています。しかし昨今の情勢では、持続的で豊かな未来のために、様々な面でのより具体的に目に見える形での取組みが求められています。

サステナブルな環境や社会を実現するための取組みも、企業としての根本に関わることでであると認識しています。社会不安の増大や環境破壊は、企業の存続を脅かすことになるという一般的な理由もありますが、特に当社においては、事業の多くが「コラーゲン」という生物由来の原料に依存していますので、事業の継続が自然環境に大きく影響されます。創業以来、従業員の教育や地域、社会への貢献など、従業員や地域とともに繁栄することを目指してきたニッピならではの視点をもって取組んでまいります。



### Q ステークホルダーとの関係性について

株主の皆様をはじめ、従業員や地域団体、取引先など、当社に関連するすべてのステークホルダーにとって、当社との関わりがプラスの作用をもたらすものでありたいと考えております。

透明性の高い情報開示に努め、株主の皆様との「建設的な対話」に積極的に取組むこと、働くことを通じて自分の成長とやりがいを感じられる場となること、利益だけを追求するのではなく事業をとおして社会に貢献して価値を創造し続けることで、利益を上げ続ける企業にしていきたいと考えております。

### Q 会社の将来像について

短期では、まずは生産性を上げること、人が育つ仕組みをつくること、財務基盤を強靱にすること。中期では、高付加価値事業を伸ばすこと、どこでも行っているものではなく、独自性のある商品によって社会に貢献すること。長期的には、独自の技術、事業を通じて世界中の人々の生活の質を向上させるためになくしてはならない会社になることを目指します。

先の見えない時代と言われていますが、見えない世界に翻弄されるのではなく、自ら未来を作る意思をもって事業に取組んでいきたいと考えております。

株主の皆様には、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年6月

代表取締役社長 伊藤裕子



### 新商品の紹介

## 新ブランド COLLESSENCE 誕生 エイジングケアからウェルネスケアへ

当社のグループ会社である株式会社ニッピコラーゲン化粧品が、この度新たな商品『コレセンス エンリッチ ナイトマスク』を発売いたしました。

『COLLESSENCE (コレセンス)』は、「コラーゲン」と「本物、本質」を表す「エッセンス」という言葉をかけ合わせた造語で、お客様に心身ともにすこやかに輝く毎日を送っていただくため、「生命活動の本質」を追求するブランドです。

『コレセンス エンリッチ ナイトマスク』は、シリピンという天然成分を主成分としております。シリピンには、皮膚の老化を抑制する効果があります。また、当社のバイオマトリックス研究所と中国の瀋陽薬科大学との共同研究において、コラーゲンとの親和性が高いことが認められました。ぜひ毎日のコラーゲンケアに加えていただきたい商品でございます。

#### コレセンス エンリッチ ナイトマスク：

コレセンスブランドのスタートとなる新商品です。夜のスキンケアの最後にご使用ください。日中のダメージを眠っている間にケアする保湿マスクです。

60g ¥5,500 (税込)  
(夜のみ使用で約2か月分)



## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第175期 (2022年3月31日現在)	第176期 (2023年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	25,005	26,766
固定資産	43,410	42,795
有形固定資産	39,184	38,572
無形固定資産	268	241
投資その他の資産	3,958	3,980
繰延資産	0	2
<b>資産合計</b>	<b>68,417</b>	<b>69,564</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	15,919	17,434
固定負債	18,501	17,052
<b>負債合計</b>	<b>34,421</b>	<b>34,486</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	24,673	25,670
その他の包括利益累計額	8,738	8,791
非支配株主持分	583	614
<b>純資産合計</b>	<b>33,996</b>	<b>35,077</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>68,417</b>	<b>69,564</b>

### 連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第175期 (2021年4月1日から 2022年3月31日まで)	第176期 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)
<b>売上高</b>	<b>39,349</b>	<b>44,811</b>
売上原価	29,454	34,403
販売費及び一般管理費	8,135	8,935
<b>営業利益</b>	<b>1,759</b>	<b>1,471</b>
営業外収益	191	329
営業外費用	174	247
<b>経常利益</b>	<b>1,776</b>	<b>1,553</b>
特別利益	22	230
特別損失	121	15
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>1,677</b>	<b>1,768</b>
<b>当期純利益</b>	<b>1,169</b>	<b>1,217</b>
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>1,144</b>	<b>1,169</b>

### 連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第175期 (2021年4月1日から 2022年3月31日まで)	第176期 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,070	2,667
投資活動によるキャッシュ・フロー	△917	△821
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,132	△1,665
現金及び現金同等物に係る換算差額	102	37
現金及び現金同等物の増・減(△)額	△878	218
現金及び現金同等物の期首残高	7,499	6,621
現金及び現金同等物の期末残高	6,621	6,839

## 会社の概況

(2023年3月31日現在)

### ■ 会社の概要

商号	株式会社ニッピ
設立年月日	1907年(明治40年)4月1日
資本金	4,404百万円
従業員数	611名(連結対象会社合計)
本社	東京都足立区千住緑町1-1-1
主な事業内容	コラーゲン・ケーシング、ゼラチン、その他コラーゲン関連商品の製造販売及び皮革関連製品等の販売
ホームページ	<a href="https://www.nippi-inc.co.jp">https://www.nippi-inc.co.jp</a>
主要取引銀行	みずほ銀行 三菱UFJ銀行 三井住友銀行 みずほ信託銀行

(2023年6月28日現在)

### ■ 取締役及び監査役

代表取締役会長	伊藤隆男
代表取締役社長	伊藤裕子
取締役	井上善之
取締役	深澤幸洋
取締役	野村聡彦
取締役	佐野武彦
取締役	宮脇幹太
社外取締役	村上勝彦
監査役	伊藤政人
監査役	吉田安
社外監査役	大倉喜彦
社外監査役	福田秀明

## 株式情報

(2023年3月31日現在)

### ■ 大株主

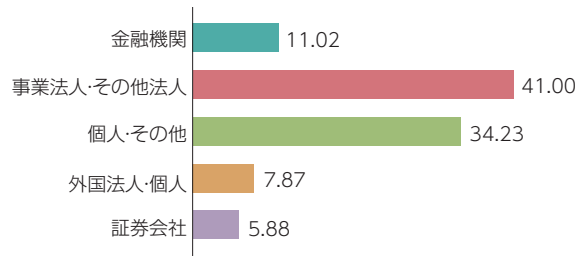
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社リーガルコーポレーション	415	14.45
大成建設株式会社	222	7.74
株式会社SBI証券	119	4.15
中央建物株式会社	116	4.05
東京建物株式会社	100	3.48
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	88	3.09
NOMURA CUSTODY NOMINEES LIMITED OMNIBUS-FULLY PAID(CASHPB)	84	2.95
PHILLIP SECURITIES (HONG KONG) LIMITED	75	2.61
株式会社みずほ銀行	69	2.43
みずほ信託銀行株式会社	60	2.09

(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。  
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### ■ 株式の状況

発行可能株式総数	11,550,000株
発行済株式の総数	2,876,024株
	(自己株式12,976株を除く)
株主総数	3,271名

#### 所有者別持株比率(%)



## 株主優待制度

2023年3月31日現在の株主名簿に記載された、1単元（100株）以上を保有されている株主様を対象として、当社グループの製品「ニッピコラーゲン100」を1箱贈呈しております。

7月上旬の発送を予定しております。

海外への発送は行っておりません。

転居された場合は、株式を管理されている口座管理機関（証券会社等）へ、住所変更の手続きをお願いいたします。



(写真はイメージです)



ニッピコラーゲン100 1箱（110g×3袋）

販売元：株式会社ニッピコラーゲン化粧品

### ● 優待製品のご購入に関するお問合せ先

株式会社ニッピコラーゲン化粧品  
TEL：0120-30-3232（フリーダイヤル）  
専用サイト：<https://nip-col.jp>

### ● 株主優待制度に関するお問合せ先

株式会社ニッピ 総務部  
TEL：03-3888-6651  
Mail：[yutai@nippi-inc.co.jp](mailto:yutai@nippi-inc.co.jp)

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 基準日	毎年6月 定時株主総会 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 3月31日（中間配当を行う場合は9月30日）
配当金受領株主確定日	100株
1単元の株式数	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	0120-288-324（フリーダイヤル）
電話照会先	当社ホームページに掲載する。ただし、やむを得ない事由により電子公告による
公告方法	公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。 東京証券取引所 スタンダード市場
上場証券取引所	

### 株式に関するお手続きについて

1. 証券会社等に口座をお持ちの場合、原則として住所変更や買取請求などの株主様の各種お手続きは、ご利用の証券会社等を経由して行っていただくこととなりますので、証券会社等宛でご連絡をお願いいたします。
2. 証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）、「みずほ信託銀行」本店・全国各支店でお取り扱いいたします。
3. 支払明細の発行に関するお手続きにつきましては、上記「郵便物送付先」宛にお問合せください。
4. 未払配当金のお支払につきましては、「みずほ信託銀行」本店・全国各支店にお問合せください。